

東京府 十九人
 京都府 十五人
 大阪府 九人
 神奈川県 十七人
 長崎縣 八人
 新潟縣 十七人
 埼玉縣 十二人
 群馬縣 八人
 千葉縣 十二人
 茨城縣 十一人
 栃木縣 八人
 奈良縣 五人
 三重縣 五人
 愛知縣 十六人
 靜岡縣 十二人
 山梨縣 五人

滋賀縣 七人
 岐阜縣 十人
 長野縣 十二人
 宮城縣 八人
 福島縣 十一人
 巖手縣 七人
 青森縣 六人
 山形縣 八人
 秋田縣 八人
 福井縣 六人
 石川縣 七人
 富山縣 八人
 島根縣 四人
 岡山縣 七人
 廣島縣 十四人
 山口縣 十四人

百二十

和歌山縣 七人
 德島縣 七人
 香川縣 七人
 愛媛縣 十人
 高知縣 六人
 福岡縣 十四人
 大分縣 八人

佐賀縣 六人
 熊本縣 十一人
 熊本縣 十一人
 宮崎縣 五人
 鹿兒島縣 十一人
 北海道 八人
 沖繩縣 四人
 合計 四百四十二人

○議事經過

本案ハ一月六日提出、同月十五日第一讀會ニ於テ根本正君ハ提案ノ趣旨ヲ辯明シタル後政府提出同一法案ノ委員ニ併セ付託セラレ、委員會ハ之ヲ否決シ、同月二十九日及三十一日政府案議決ノ結果自然消滅ニ歸シタリ

第二節 政府提出案

第一回議會以來現行選舉法制定ニ至ルマテ提出セラレタル政府ノ改正案ハ三件ナリ其ノ内第十二回議會(第二次伊藤內閣)及第十三回議會(第二次山縣內閣)ニ提出セラレタル改正案ハ本院之ヲ修

第二章 萬選舉法ニ對スル改正案 第二節 政府提出案

百二十一

正議決シタルトモ貴族院ニ於テ未決又ハ否決ニ終リ第十四回議會(第二次山縣内閣)ニ提出セラレタル改正案始メテ兩院ヲ通過シ現行法ヲ爲スニ至レリ現行法議定ノ詳細ハ之ヲ次節ニ譲リ此ノ節ニ於テ前二案ノ經過及結果ヲ略説スル所アラン

第十二回議會 (自明治三二、六一九)

○議事經過

五月二十一日政府ハ選舉法改正案ヲ本院ニ提出シ、本院ハ五月二十五日其ノ第一讀會ヲ開キ、伊藤内閣總理大臣ハ大體ニ關シ左ノ如ク提案ノ趣旨ヲ辯明ス

當初憲法ヲ發布セララルト共ニ衆議院議員選舉法カ發セラレタノテコサイマスカ此ノ衆議院議員選舉法ヲ制定セララルニ當テハ未ダ曾テ經驗ノナイ所アリマシ故ニ政府ニ於テハ深ク之ニ注意ヲ加ヘテ成ルヘク憲法上ノ進行ヲ平穩ニ進フヤウト用心ヲ致シテ措キマシタ故ニ資格ノ上ニ於テモ餘科高メテアツタノテアリマス爾來星霜ヲ經テ今日トナリマシテ僅々數年ノ間テハアリマスケレトモ今ノ選舉法ノ規定ニ依リマシタ處ノ選舉人ノ資格テハ各國國民ノ意思ヲ十分ニ代表スルニ足ラスト認メマシタ夫レ故ニ選舉權ヲ下ケマシタノテアリマス而シテ商業工業ノ發達ス

ルニ從テ市ノ代表者ヲ特ニ増スノ必要アルヲ認メマシタ諸君カ御熟知ノ通り憲法ノ施行セラレテ居ル何レノ國ニオキマシテモ凡ソ人口上ノ比例ト又選舉權ヲ有スルモノノ數ト云フモノハ一定ノ極リカアル譯テハアリマセスカ併シ稍近キモノカ行ハレテ居リマス我國ノ現行ノ選舉法ニ依リマスルト云フト四千二百萬ノ人口ノ上ニ於テ選舉權ヲ得テ居ルモノカ四十五萬人内外ニナツテ居リマス此度提出シタル議案ニ依ルトキハ凡ソ二百萬人ニ上ルト思ヒマス、左様スルト選舉人即テ所謂參政權ヲ得ルモノカ唯今ヨリ五倍以上ニ相成リマスルカ此位ノ増加カ先ツ當然ノコトテアラウト認メマシタ而シテ參政權ヲ得ル即チ選舉人ノ數ハ増シマシテ人民ノ各種ノ意思ヲ發表スレハ被選人ノ上ニ於テハ別段資格ヲ要セヌコトト認メマス而シテ成ルヘク之レヲ日本全國ニ共通シテ廣ク選舉サルル様ニ相成ツタ方カ宜カラウトイフ積リテアリマス之レハ現在ノ國情ニ照ラシテ見マシテモ唯今ノ狭小ナル區域ノ上ニ此憲法ノ任務ヲ盡ス所ノ議員ノ選舉法ヲ固守致スヨリハ憲法政治ノ進行上ニ於テ一層ノ發達ヲ見テ成ルヘク國政ノ上ニ各種人民ノ思想ヲ發表サルル事ヲ希望致ス積テアリマス而シテ又此現在ノ選舉法制定ノ當時ノ人口ト今日ト比較シテ見マスルト人口ノ數モ増シテ居リマス一面ニ於テ人口ノ數ノ増ト比較シマスルト云フト選舉資格ハ自ラ低減サレテ居リマス爲メニ次第ニ縮小スル結果ヲ來ス譯テアリマスカラ一ツハ議員ノ數ヲ増シ選舉人ノ數ヲ増ストイフ方針ヲ執リマシタ而シテ又一方カラ見マスルトイフ

ト國政ノ結果自ラ人民ノ負擔ヲ増ササルヲ得ヌ狀勢ニ赴イテ參ツテ居リマスニヨツテ之レト相
伴フテ參政ノ權ヲ擴張スルコトノ必要ヲ認メマシタノテコサイマス

政府委員梅謙次郎君ハ別表市ト郡ト區別シ其ノ議員選舉標準ハ市ハ五萬人以下ニ付一人、郡ハ十
萬人以下ニ付一人ノ割合ニ依ル旨説明セリ斯クシテ本案ヲ二十七名ノ特別委員ニ付託シタリ

委員會ニ於テハ委員長ニ中村彌六君、理事ニ前川橫造君當選シ、審査ノ結果五月三十一日修正ヲ
加ヘ報告書ヲ提出シタリ

六月三日第一讀會ノ續會ヲ開キ、委員長ハ審査ノ經過結果ヲ報告セリ修正ノ要點左ノ如シ

(一) 原案ハ一府縣ヲ一選舉區トシ被選人一名ヲ單記スルノ制ヲ取レルモ委員會ハ選舉區ハ原案
ノ儘トシ投票者ハ其區内ノ被選人ノ定數ヲ連記スルコトニ修正ス

(二) 原案ハ議員數ト人口トノ割合ニ關シ市ニ於テハ人口五萬ニ付議員一人ヲ出スノ標準ヲ取レ
ルモ委員會ハ八萬ニ付一人ノ割合ニ改メタリ

(三) 原案ハ選舉人ノ年齡ハ二十五年以上、被選人ハ三十年以上トアルモ委員會ハ執レモ五年宛
低下シタリ

(四) 原案ハ宮内官、警察官、裁判官、検査官及收稅官ハ被選權ヲ有セス又凡テノ官吏ハ議員ト
兼スルヲ得ストアリシヲ委員會ハ國務大臣、法制局長官、各省次官及勅任參事官ハ議員ト相

兼スルコトヲ得ト修正シタリ

之ニ對シ利光鶴松君ハ少數意見ヲ報告シ第三十五條一項ノ修正即チ連記投票ニ反對シ、金子農商
務大臣ハ政府ノ意見トシテ連記投票及市ノ選出議員數ノ減少ニ付反對ノ旨ヲ述ヘ、次テ第二讀會
ニ入り、六月四日引續キ第二讀會ヲ開キ討議ノ末、同日第三讀會ヲ開キ委員會ノ修正通可決確定
シ貴族院ニ送付セリ
貴族院ハ六月七日日本案ノ第一讀會ヲ開キ質疑ノ後十五名ノ特別委員ニ付託シタルモ會期終了ノ爲
未決ニ終レリ

衆議院議員選舉法改正法律案

政 府 提 出

○理由書

世運ノ進歩ニ伴ヒ從來ノ實驗ニ徴シ本法改正ノ必要アルヲ認ム依テ本案ヲ提出ス

衆議院議員選舉法

備考 (小字及——ハ本院修正)

第一章 選舉區及投票區

第一條 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

第二章 萬選舉法ニ對スル改正案 第二節 政府提出案

選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ別表ニ於テ之ヲ定ム

第二條 市町村ヲ以テ投票區トス

東京市京都市大阪市ニ在テハ區ヲ以テ投票區トス

前項以外ノ市ニ在テハ勅令ヲ以テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特別ノ規定ヲ定ムルコトヲ得

町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト見做ス

第三條 市町村長ハ其ノ市町村ノ投票管理者トナリ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

東京市京都市大阪市ニ在テハ區長其ノ區ノ投票管理者トナリ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第四條 郡市長ハ其ノ郡市ノ開票管理者トナリ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

東京市京都市大阪市ニ在テハ區長其ノ區ノ開票管理者トナリ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第五條 府縣知事ハ府縣^{市ヲ}ノ選舉長トナリ市長ハ市ノ選舉長トナリ選舉ニ關スル事務ヲ擔任

ス

市ヲ以テ選舉區ト爲ス場合ニ於テハ市長ハ其ノ市ノ選舉長トナリ選舉ニ關スル事務ヲ擔任ス

第六條 各選舉區ノ選舉ハ内務大臣府縣知事之ヲ監督ス

第七條 行政區畫ノ變更ニ依リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章 選舉權及被選舉權

第八條 左ノ資格ヲ具備スル者ハ選舉權ヲ有ス

一 帝國臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五年以上ノ者

二 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ府縣内ニ住居シ仍引續キ住居スル者

三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上土地租五圓以上又ハ滿二年以上所得稅若ハ營業稅三圓

以上又ハ所得稅營業稅ヲ通シテ三圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

第九條 相續ニ由リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ納稅額ヲ以テ其ノ者ノ納稅

資格ニ算入ス

第十條 帝國臣民ノ男子ニシテ年齡^{二十五}三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

第十一條 左ニ掲クル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 瘋癲白癡ノ者

二 禁治產者準禁治產者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散ノ決定若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其

ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者

四 公權剝奪及停止中ノ者

五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ者

第十二條 華族ノ當主又ハ陸海軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

官立公立私立學校ノ學生生徒モ亦前項ニ同シ

第十三條 左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後六箇月ヲ經過セサル者モ亦同シ

一 政府ヨリ保護ヲ受クル會社ノ重役及事務擔當員

二 直接間接ヲ問ハス政府事業ノ請負ヲ爲ス者

三 神官僧侶其ノ他諸宗教師

第十四條 選舉事務ニ關係アル官吏公吏ハ其ノ關係區内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後六箇月ヲ經過セサル者モ亦同シ

第十五條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セス

第十六條 前ニ掲クル外ノ官吏ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

一 國務大臣

二 法副局長官

三 各省次官

四 各省勅任參事官

第十七條 府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章 選舉人名簿

第十八條 投票管理者ハ毎年一月一日ヲ期トシ其ノ投票區内ニ住居スル者ノ選舉資格ヲ調査シ選舉人名簿ヲ作ルヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名官位職業身分住所生年月納稅額及納稅地等ヲ記載スヘシ

第十九條 選舉人其ノ住居スル投票區外ニ於テ地租所得稅若ハ營業稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ當該行政廳ノ證明ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票管理者ニ届出ヘシ其ノ期日マテニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅額ハ選舉資格ニ算入セス

第二十條 投票管理者ハ二月五日ヨリ十五日間其ノ廳ニ於テ選舉人名簿ノ寫ヲ縦覽セシムヘシ

第二十一條 選舉人選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ理由書及證據ヲ具ヘテ投票管理者ニ申立テ其ノ訂正ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 選舉人正當ノ事故ニ由リ第十九條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選舉人名簿ニ記載セラレサルトキハ前條ノ例ニ依リ其ノ記載ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 縦覽期限ヲ經過シタルトキハ前二條ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條 投票管理者ニ於テ第二十一條第二十二條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト判定シタ

ルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ訂正シ其ノ由ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ投票區内ニ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト^決判定シタルトキハ其ノ理由ヲ申立人ニ通知スヘシ

第二十五條 申立人又ハ關係人ニ於テ投票管理者ノ^決判定ニ服セサルトキハ投票管理者ヲ被告トシ^決判定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第一項地方裁判所ノ判決ハ上告ノ爲ニ其ノ執行ヲ停止セス

第二十六條 選舉人名簿ハ三月十五日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ訂正スヘキモノハ投票管理者ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタルトキハ直ニ之ヲ訂正シ其ノ由ヲ投票區内ニ告示スヘシ

第四章 選舉投票及投票所

第二十七條 總選舉ノ期日ハ敕命ヲ以テ之ヲ定メ少ナクトモ三十日前ニ公布スヘシ

第二十八條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ投票ハ一人一票ニ限ル

第二十九條 投票所ハ市區役所町村役場又ハ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第三十條 投票管理者ハ投票ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ投票所ヲ其ノ投票區内ニ告示スヘシ

第三十一條 投票管理者ハ其ノ投票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ二名以上五名以下ノ投票立會人ヲ選任シ選舉ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十二條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十三條 選舉人ハ選舉ノ當日自ら投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經投票シ投票簿ニ捺印ス可シ

第三十四條 投票用紙ハ各選舉區一定ノ式ヲ用キ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ

第三十五條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ら被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

文字ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票スルコトヲ得ス

第三十六條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外ハ投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第三十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタルモ選舉權ナキ者ハ投票スルコトヲ得ス

第三十八條 投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ由ヲ告ケテ一時投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル者ノ投票結了スルヲ待テ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第三十九條 投票管理者ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關スル一切ノ事項ヲ記載シ投票立會人ト共ニ署名捺印スヘシ

第四十條 町村ニ於ケル投票管理者ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ開票管理者ニ送致スヘシ

第四十一條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前日ノ期日内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日マテニ其ノ投票函及投票明細書ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十二條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選舉長ニ其ノ由ヲ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ選舉長ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クモ五日前ニ投票區内ニ告示セシムヘシ

第五章 投票所取締

第四十三條 投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ノ場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第四十四條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス但シ警察官吏投票所ノ事務ニ從事スル者又ハ投票所ヲ監視スルノ職權ヲ有スルノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ喧譁ニ涉リ又ハ他人ノ投票ニ付勸誘スル等秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

第四十六條 前條ニ依リ投票所外ニ退出セシメタル者ハ最後ニ呼入レ投票ヲナサシムヘシ其ノ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ氏名及事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第六章 開票及開票所

第四十七條 開票所ハ郡市區役所又ハ開票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第四十八條 開票管理者ハ豫メ開票所ヲ告示スヘシ

第四十九條 開票管理者ハ投票立會人ノ中ヨリ三名以上七名以下ノ開票立會人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ但シ市區ニ在リテハ投票立會人ヲ以テ開票立會人トス

開票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十條 開票管理者ハ郡ニ在テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日市區ニ在テハ投票ノ翌日開票

立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ノ總數ト投票

人ノ總數トニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ開票明細書ニ記載スヘシ

第五十一條 前條ノ計算終リタルトキハ開票管理者ハ開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十二條 選舉人ハ其ノ開票所ニ開票ノ參觀ヲ求ムコトヲ得

第五十三條 投票ノ效力ニ付疑義アルトキハ開票立會人ノ意見ヲ開キ開票管理者直ニ之ヲ決定

ス此ノ決定ニ對シテハ開票所ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第五十四條 前條ノ決定ニ對シ異議アル者ハ決定ノ日ヨリ七日以内ニ開票管理者ヲ被告トシ地

方裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴訟ニ付テハ第二十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

二 被選舉人ノ氏名讀ミ難キモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シ

タルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルトキハ其ノ首位ニ在ルモノノ外之ヲ除却スヘシ

第五十六條 投票ハ有效無効ヲ區別シ議員ノ任期間其ノ開票管理者ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第五十七條 開票管理者ハ開票明細書ヲ作り開票ニ關スル一切ノ事項ヲ記載シ開票立會人ト共

ニ署名捺印シ投票明細書ト共ニ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第五十八條 投票ノ點檢終ルトキハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選舉長ニ報告スヘシ

第五十九條 第四十二條ノ規定ハ開票ニモ亦之ヲ準用ス

第六十條 開票所ノ取締ニ付テハ第五章ノ例ニ依ル

第七章 選舉會

第六十一條 選舉會ハ選舉長ノ指定シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開キ各開票所ノ報告ヲ調査ス

第六十二條 選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ其ノ選舉區内ニ告示スヘシ

第六十三條 選舉長ハ選舉區内ノ選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉會

ノ當日參會セシムヘシ但シ東京市京都市大阪市ニ在テハ開票立會人中ヨリ之ヲ選任シ其ノ他

ノ市ニ在テハ開票立會人ヲ以テ選舉立會人トス

選舉立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十四條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉會ニ關スル一切ノ事項ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ

署名捺印シ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十五條 選舉人ハ其ノ選舉區ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 選舉會場ノ取締ニ付テハ第五章ノ例ニ依ル

第八章 當選人

第六十七條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選舉區内ノ議員定數ヲ以

テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項當選人當選無效トナリ又ハ當選ヲ辭シ又ハ死亡シタルトキハ前項ノ得票者ニシテ當選人トナラサリシ者ノ中ニ付得票ノ順位ニ依リ之ヲ補充ス

第一項ノ得票ナキ爲選舉スヘキ議員ノ員數ヲ得サルニ由リ更ニ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ但書ニ拘ラス有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス

前項當選人當選無效トナリ又ハ當選ヲ辭シ又ハ死亡シタルトキハ前項ノ得票者ニシテ當選人

トナラサリシ者ノ中ニ付得票ノ順位ニ依リ之ヲ補充ス

本條ニ依リ當選人ヲ定メ又ハ補充ヲ爲スニ當リ得票同數ナル者ハ年齡ニ依リ年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ其ノ順位ヲ定ム

第六十八條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ之ヲ各當選人ニ通知スヘシ

第六十九條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ選舉長ニ届出ヘシ

第七十條 一人ニテ數選舉區ノ當選人トナリタル者ハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スルカヲ其ノ

選舉長ニ届出ヘシ

第七十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲ササルトキ

ハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第七十二條 當選人議員ノ定數ニ達セサルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

當選人當選無效トナリ又ハ其ノ當選ヲ辭シ又ハ死亡シタル場合ニ於テ第六十七條第二項ニ依リ補充スヘキ者ナキトキモ亦前項ニ同シ

第七十三條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ之ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ管内ニ告示シ且其ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ報告スヘシ

第七十四條 第五十四條ノ場合ニ於テ開票管理者敗訴シ其ノ結果當選人ニ異動ヲ生スルトキ又ハ當選訴訟ノ結果當選人ニ異動ヲ生スルトキハ府縣知事ハ前議員ノ當選證書ヲ取消シ更ニ第六十七條以下ノ手續ヲ爲スヘシ

第九章 議員ノ任期及補闕選舉

第七十五條 議員ノ任期ハ總選舉ノ期日ヨリ四箇年トス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ルマテ在任スルモノトス

第七十六條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ行フヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ臨時選舉ヲ行ハシムヘシ

總選舉ノ期日ヨリ一箇年以内ニ議員ノ闕員アルトキハ第六十七條第二項第五項ヲ適用シ其ノ補充スヘキ者ナキトキニ於テ前項ノ選舉ヲ行フモノトス

第七十七條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十章 當選訴訟

第七十八條 各當選區ニ於テ當選ヲ得サル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第七十三條ノ規定ニ依リ當選人ヲ告示シタル日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 原告人ハ訴狀ト共ニ保證金トシテ五百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院ニ供託スヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判^{確定}言渡ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判ヲ以テ各訴訟人ニ對シ宣言ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 訴訟ノ被告タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第十一章 罰則

第八十三條 選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ收受者又ハ受諾者ニシテ選舉當日後二十日以内ニ自首シタル者ハ其ノ罪ヲ論セス

一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込タル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾センコトヲ周旋勸

誘シタル者並之ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二 選舉ニ關シ酒食遊覽等其ノ方法ノ何タルヲ問ハス人ヲ饜應シ又ハ饜應ヲ受ケタル者又ハ選舉會場開票所若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者

三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係團體ニ對スル用水小作債權債務寄附等其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應ジタル者

第八十五條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一 選舉ニ關シ選舉人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

二 選舉人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐欺ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シタル者

三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係團體ニ對スル用水小作債權債務其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ威逼シタル者

第八十六條 投票管理者開票管理者選舉長立會人若ハ選舉監督者ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉會場開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票投票函投票書類ヲ抑留毀壞奪取シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

多數ヲ嘯聚シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ輕禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ一月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十七條 選舉人議員候補者若ハ選舉運動者ヲ脅迫シ又ハ選舉會場開票所投票所ヲ騷擾シ又ハ投票投票函投票書類ヲ抑留毀壞奪取スルノ目的ヲ以テ多數ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者第八十八條ノ物件ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第八十八條 選舉人議員候補者及選舉運動者ニシテ銃砲槍戟仕込刀劍仕込銃竹槍棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶スルトキハ一年以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 前條記載ノ物件ヲ携帶シテ選舉會場開票所若ハ投票所ニ入りタル者ハ前條ノ例ニ依リ一等ヲ加フ

第九十條 選舉ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ヲ以テ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火篝火松明ノ類ヲ用キ若ハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ

五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 第八十六條乃至第九十條ノ所爲ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙雜誌其ノ他文書圖書ニ依リ人ヲ教唆シタル者ハ其ノ各條ニ依リ處斷ス但シ新聞紙雜誌ニ在テハ其ノ署名シタル編輯人ヲ處斷ス

第九十二條 當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙雜誌引札張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス被選舉人ニ關シ虚偽ノ事項ヲ公ニシタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ新聞紙雜誌ニ在テハ前條但書ノ例ニ依ル

第九十三條 選舉人タルコトヲ得サル者ニシテ投票ヲ爲シタル者及氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 第八十七條第三項第八十八條及第八十九條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ攜帶シタル物件ヲ沒收ス

第九十六條 此ノ法律ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期終リタル後三年以上七年以下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ス

第八十四條第八十八條乃至第九十九條第九十條第九十一條ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ其ノ選舉ニ於ケル被選舉人タルコトヲ得ス

第九十七條 此ノ法律ニ依リ處斷スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ時效ニ權ル

第十二章 補則

第九十八條 選舉ニ關スル費用ニ付テハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十九條 選舉ニ關スル事件ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第一百條 町村ヲ市ト爲シタル場合ニ於テハ此ノ法律ノ別表ヲ改正スルマテノ間其ノ市ハ從前屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノト看做シ此ノ法律中町村及町村長ニ關スル規定ハ之ヲ市及市長ニ適用ス

第一百一條 町村制ヲ施行セサル地ニ在テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長及之ニ準スヘキ者之ヲ掌ルヘシ

島司ヲ置ク
別ニ選舉區ト爲シタル島嶼ニ在テハ此ノ法律ニ規定シタル開票管理者及選舉長ノ職務ハ其ノ地ノ島司之ヲ掌ルヘシ

第一百二條 立會人指定ノ時刻ニ至リ參會セサルトキ又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ投票管理者開票管理者選舉長ハ臨時ニ選舉人ノ中ヨリ立會人ヲ選任スヘシ

山形市	米澤市	郡部	秋田縣	郡部	福井縣	郡部	石川縣	郡部	其ノ他	富山縣	富山市	高岡市
-----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	-----	-----	-----

一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

鳥取縣	鳥取市	郡部	島根縣	松江市	郡部	松江縣	岡山市	郡部	廣島縣	廣島市	尾道市	其ノ他
-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----

六人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

四日市市	郡部	愛知縣	其ノ他	名古屋市	郡部	靜岡縣	郡部	山梨縣	甲府市	郡部	滋賀縣	岐阜縣	岐阜市	郡部
------	----	-----	-----	------	----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	-----	----

一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

長野市	長野縣	宮城縣	仙台市	郡部	福島縣	巖手縣	盛岡市	郡部	青森縣	弘前市	青森市	郡部	山形縣
-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----

十二人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

山口縣	十人	高知縣	六人
赤間關市	一人	高知市	一人
郡	九人	郡	五人
和歌山縣	七人	福岡縣	十四人
和歌山市	二人	福岡市	二人
郡	五人	久留米市	一人
德島縣	七人	郡	十二人
德島市	二人	大分縣	八人
郡	六人	佐賀縣	六人
香川縣	七人	佐賀市	一人
高松市	一人	郡	五人
郡	六人	熊本縣	十一人
愛媛縣	十人	熊本市	二人
松山市	一人	郡	十人
郡	九人	宮崎縣	五人

第十三回議會 (自明治三三、一三三至同三三、三三九)

二月八日政府ハ選舉法改正案ヲ本院ニ提出シ、本院ハ同日其ノ第一讀會ヲ開キ、政府委員松平正直君提案ノ趣旨ヲ辯明ス、其ノ要旨ハ(一)府縣ヲ一選舉區トシ、且市ノ獨立選舉區ヲ認メタリ(二)選舉人ノ納稅資格ハ地租ハ五圓以上直接國稅ハ三圓以上年齢ハ二十年以上トシ被選人ノ年齢ハ三十年以上トナシタリ(三)投票ハ單記無記名トス、斯クシテ本案ハ直ニ二十七名ノ特別委員ニ付託セラレタリ

委員會ニ於テハ委員長ニ星亨君、理事ニ前川横造君、岡本松太郎君當選シ、會議ヲ開クコト七回、修正ノ上二月二十一日報告書ヲ提出シ、工藤行幹君外十名ハ少數者意見トシテ別ニ修正案ヲ提出シタリ

二月二十二日第一讀會ノ續會ヲ開キ、委員長ハ審査ノ經過並結果ヲ報告ス、其ノ修正ノ要點左ノ如シ(一)納稅資格中地租以外ノ諸稅ハ原案ニ三圓トアリシヲ地租ト同シク五圓トス

鹿兒島縣	十一人	郡	八人
鹿兒島市	二人	大島	一人

セ付託セラレシカ委員會ニ於テ審査中三月二十日政府ハ之ヲ撤回セリ

七百二十六

大正八年二月二十二日印刷
大正八年二月二十五日發行

衆議院事務局

印刷者 東京市京橋區日吉町十番地
渡邊爲藏

印刷所 東京市京橋區日吉町十番地
民友社